須坂新校　校地選定について

校地検討会議

１　校地検討会議のまとめ

新校の校地は､須坂創成高等学校校地を活用する。

２　校地選定の基本的な考え方

（１）現行校地の活用を原則とする。

（２）原則として校地の併用は検討しない。

３　校地選定に至った主な理由

（１）須坂新校の学びのイメージを具現化していくことを第一に考え、特に専門科間および専門科と普通科（仮称：みらいデザイン科）の連携を実現していくために、須坂創成高校の農地、工業科設備を活用することが適切であると考えられる。

（２）両校の生徒の約半数が旧第３通学区から通学していることを考えると、須坂駅により近い場所に校舎を整備することが適切であると考えられる。

４　須坂創成高校校地活用にあたっての要望

（１）生徒のことを第一に考え、特に、以下に示す施設・設備の充実を目指すこと。

ア.　学科間の連携に必要な広いスペースなど、学びのイメージを具現化していくのに必要な施設・設備の整備

イ.　体育授業や部活動および、集会等で全校生徒が一堂に会することができるために必要な規模の体育施設の整備

ウ.　旧須坂商業高校グラウンドを引き続き借用できるようにする等、生徒の部活動に関する環境の整備

（２）地域の生涯学習の拠点として、また地域連携の実現のため、地域の方々と連携できる機能を整備すること。

（３）生徒の学びの場の確保ができるよう、施設・設備の整備に必要な予算の確保に努めるとともに、可能な限り早期に整備を行うこと。

4　懇話会のまとめ

（１）新校の学校像について

資料4

実社会の課題と向き合い、地域を学びの場に成長し続ける高校

育てたい生徒像

- 〇 探究的な学びにより身に付けた力で自分の未来を積極的にデザインできる生徒
- 〇 他者や社会と主体的に協働できる、コミュニケーション力を持った生徒
- 〇 多様な他者とつながり、新しい価値を生み出し、よりよい社会実現のために学び続ける生徒

目指す学校像

- 〇 地域をフィールドとした探究的な学びをとおして、課題発見解決能力を育む
- 〇 学科や学年を超えた協働的な学びをとおして、キャリアデザイン力を育む
- 〇 地域に開かれた学びを推進し、主体的に未来を創造し続けるための力を育む

須坂新校の取組

- 〇 校外学習、校外活動の単位認定（ボランティア、大学の講義、海外留学など）
- 〇 全学科でのデュアルシステム（校外での実践的な学び）
- 〇 世代を超えた交流学習（中学校との合同探究発表会、地域への公開講座など）
- 〇 探究の学びを深化させる「地域連携コーディネーター」が校内に常駐
- 〇 地域との協働による生涯学習の拠点づくり

地域の人々と共に学び、地域の未来を共に創る

コミュニティデザインハイスクール

- ◆ 実体験をとおして、自分と地域の未来を創造する学びを展開
- ◆ 各科の学びの成果をもとに協働的な探究を実施
- ◆ 情報リテラシーを徹底して学習し、いつでも、どこでも、ICT を積極的に利活用

農業科 ― 商業科 ― 工業科 ― みらいデザイン科（仮称）

単位制

〇学科の枠を超え、他科の専門科目も履修して自身の学びを深化

〇学校を飛び出してのアクティブな探究活動を学びの中心に

連携

〇コミュニティデザインを研究する国内外の大学との連携

〇地域を学ぶ国内外の高校生と交流

４学科の連携で地域の未来づくりに参画

専門科の学びで得た農業・工業・商業・デジタルなどの視点

探究活動で得た芸術・歴史・福祉・国際などの視点

地域の方々との共同研究　　**新校が生涯学習の拠点**

須高地域共学共創コンソーシアム

大学・専門学校

医療・福祉機関

地元企業・商工会

自治体

研究機関